

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570201172		
法人名	医療法人 博愛会		
事業所名	グループホーム らくや		
所在地	山口県宇部市浜町2丁目1-3		
自己評価作成日	平成28年4月22日	評価結果市町受理日	平成28年9月29日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成28年5月20日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人理念・方針を基盤として“お互い助け合っている笑顔で楽しい我が家”をらくやの理念として、ご利用者お一人毎の人となりを知り、その人らしさを追求した生活作りに取り組んでいます。らくやの周りには季節ごとの植栽、昔ながらをイメージさせる和風づくり、お一人毎の生活を充実して頂けるよう居住環境を整え、お気持ちを尊重し、その方らしい時の流れを守り、安心して穏やかな生活を送られるようなお手伝いを…と心がけています。開居して12年の時が流れ、これまでに頂いた沢山のご縁に支えられながらの日々を実感しながら、これからもご利用者はもちろん、ご家族、ご友人方にもいつもいたい家、一緒に過ごしたい家族としてお付き合いをして頂けたらと願っております。又、地域の方々にも立ち寄りたくなる隣家として心のよりどころにして頂ける事を目指しています

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所では毎日、昼礼時に法人や事業所の理念を唱和されると共に、①自分や家族だったらと考え、好ましくないことは改善する②事業所側の立場ではなく、社会的、道徳的、人道的に正しいかで判断する③いつでも誰にでもすべてを見せることができる仕事をする、という「当たり前三原則」を基に接遇トレーニングを行っております。毎月1回の法人研修や内部研修、資格取得のための勉強会、4ヶ月に及ぶ新人のトレーニングなどを通して職員の資質の向上を目指しております。職員は話し合いの中で、利用者の生活の一部としての食事づくりの意義を確認されて継続しておられ、手づくりで季節の味覚を楽しめるよう支援しております。日々の介護記録も丁寧に、わかりやすく記しておられ、利用者や家族の思いや意向に沿った支援に取り組まれています。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体の理念・方針を基に、職員で作ったホームの理念があり、ミーティング時や一日一回唱和をすることで意識を高め、個々のケアがそれに基づいたサービス提供になるよう取り組んでいます	地域密着型サービスの意義をふまえた法人の理念と基本方針を踏まえ、事業所理念と運営方針をつくり、毎日、昼礼時に唱和して共有している。①自分や家族だったらと考え、好ましくないことは改善する②事業所側の立場ではなく、社会的、道徳的、人道的に正しいかで判断する③いつでも誰にでもすべてを見せることができる仕事をする、という「当たり前三原則」を基に接遇トレーニングを行い、月1回のミーティングで理念に基づいたケアができていないか話し合い、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に加入しています。自治会の行事にお誘い頂いたり、散歩上、ご近所の方とお話しが弾んだり、行きつけの商店の方とも良いお付き合いをして頂いています。又、ご自宅近くの地域の方々の訪問等、継続的な交流への働きかけを行っています	法人が一つの自治会をつくり、夏祭りや文化祭、クリスマス会を開催している他、太鼓、カラオケ、高校生のダンス部のボランティアが来訪し、利用者は職員と一緒に参加して、来訪した家族や知人、ボランティア、地域の人、他施設の利用者と交流している。元利用者家族が玄関に季節の生け花を飾っている。事業所のお誕生会に手品、日舞、フラダンスのボランティアが来訪している。大学看護科の見学実習、看護学校や介護専門学校の実習を受け入れている。行きつけのスーパーマーケットでの買い物や、近隣の散歩で地域の人と挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご入居者への支援を基盤として、受診先など外出先で困っておられる方のお手伝いをさせて頂く等、ご入居者と共に役に立てる様心がけています。又、地域の学校からの実習や見学の受け入れを行っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	回を重ねる毎に職員は評価の意義、重要性を実感しており、自己評価を通しての小さな気づきを検討し、改善に繋げ、ホームの質の確保、向上を目指し取り組んでいます	自己評価をするための書類をユニットごとに閲覧し、記入したものをもとに管理者がまとめているが、全職員が主体的に自己評価に取り組むまでにはいっていない。外部評価結果はユニットミーティングで話し合い、業務の見直しに取り組んでいる他、三食とも事業所で調理することの意義を確認し、利用者の生活の一部として継続しているなど、評価を活かした取り組みをしている。	・全職員での自己評価の取り組みの工夫
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの現状を開示することでご家族、行政、地域方々との関係を深め、ご入居者の生活の質の確保を目指しています。多面的なご意見を頂き、活気のある意見交換の場として定着しています	2ヶ月に1回、利用者の状況や行事計画、ヒヤリハット・事故、リスクマネジメント等3委員会活動、研修、外部評価結果、家族向け接遇アンケート結果などを報告して意見交換し、検討している。家族の意見から事業所の年間計画を配布したり、メンバーの提案で仕分け箱を利用した配薬の工夫をするなど、そこでの意見をサービス向上に活かしている。全家族に参加の案内をするなど、メンバーの拡大に努めているが、地域の人の参加は少ない。	・地域メンバーの拡大
6	(5)	○市町との連携 市町担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議、実地指導での助言、指導の他、ホームの運営上の問題、色々な相談等、日常的に快く受け入れて下さっています	市担当者とは、運営推進会議時の他、電話や申請や報告で出向いて相談をして助言を得たり、情報交換しているなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議や電話などで情報交換し、入居状況等に関する相談をするなど、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会活動・研修で全職員、知識を深め、自らの言動に留意するよう意識統一を図っています。施錠する事で大きくなるリスクを理解し、見守り体制や外出時の付き添い対応に努めています。やむを得ない場合に備え、状況、経過を記録に残し検討する体制を整えています。	マニュアルがあり、法人研修(年1回)や内部研修(年1回)で学んでいる他、法人の身体拘束廃止委員会に2人の職員が参加し、ミーティングや申し送りで伝達報告して、全職員が身体拘束について理解している。接遇トレーニングを行ない、スピーチロックのないケアに取り組んでいる他、“あたりまえ3原則”を基にケアを振り返っている。気になるところがあれば、職員同士が注意し合い、管理者が指導している。玄関の施錠はしていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会での活動や研修、運営推進会議でも討議する機会を持ち、職員個々が虐待防止についての知識を深めています。“あたりまえ3原則”を基に不適切なケアを行わない意識を高めています。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、利用されている方もおられ、担当の方との連携も図れています。虐待防止の観点からも知識を深め、必要のある方へは情報提供も含め支援できればと考えています。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用希望時は、ご入居者へ配慮をしながら見学を勧め、雰囲気を感じて頂きながら、ホームの説明や質問を通し判断頂くよう努めています。契約に関しても丁寧な説明に心がけ、必要に応じ代理人以外の方へも説明を行う等、理解を得た安心ある契約、生活支援になるよう努めています		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書、玄関先に公的機関を含む窓口、第三者委員の明示、ご意見箱を設置している他、運営推進会議、ご家族アンケート等で気軽にご意見を伺える環境をと考え実施しています。頂いたご意見はマニュアルに沿って、ホーム内、委員会で検討し、回答、開示致します	契約時に相談や苦情の受付体制、第三者委員、処理手続きを家族に説明している。意見箱を設置している。面会時や電話、運営推進会議時、家族アンケート(年1回)などで、家族からの意見や要望を聞いている。家族から事業所の行事を知りたいという意見があり、年間計画表を配布したり、各居室の湯温の調整について要望があり、その人に合った温度に調整するなど、意見や要望を反映させている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング・小委員会・無記名での提案箱の設置等環境作りをしています。ユニットリーダーが職員の意見をまとめた提案に対し検討、改善に繋がっています。又、個別の相談も気軽にしてもらえよう努め、やりがいのある職場環境を目指しています	月1回のユニットミーティングや法人の小委員会活動(身体拘束廃止、感染症防止、リスクマネジメント、広報、CS(お客様満足度)、教育、美化等)の中で、職員の意見や提案を聞いている他、管理者やリーダーは日常の業務の中で職員の意見を聞いている。職員の家庭の事情を考慮した勤務時間に配慮して、働きやすい環境を整えたり、ケアの手順を改善するなど、意見や提案を反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員の健康、精神的な負担を理解しており、出来る限り負担のかからない就業になるよう運営の検討に努めています。又、資格取得等、自己研鑽に対し奨励しています		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職後、ご入居者との関係づくりに重点をおき、段階に応じた業務の仕方や新人研修を行っています。外部研修参加者は、他の職員へ伝達講習を行い、共に知識向上に繋がるよう心がけています。資格取得についても協力できる体制をと考えています。	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じて参加の機会を提供している。受講後は法人研修や内部研修で伝達講習を行い、職員間で共有している。法人研修は月1回、年間計画に沿って防災、災害、感染症、リスクマネジメント、救急救命などについて実施している他、資格取得のための勉強会を行っている。内部研修は月1回、ミーティングでミニ勉強会として認知症、内服マニュアルの確認などについて実施している。新人は法人で3日間の研修を受け、3週間日勤の中で先輩職員から1対1の指導を受け、4ヶ月間、新人として働きながら学べるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国GH協会、県のGH協会へ加入しており、部会、研修への参加を通し交流する機会にも恵まれてます。ケア提供に対しての課題解決に繋がる助言をもらったり、相互の向上の為のお付き合いが出来ていると考えます		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談のあった時よりご本人、ご家族からしっかりと話を伺い、ご入居までに気軽に立ち寄って頂いたり、徐々に滞在時間を増やして体験して頂いたり、他職種の方にも協力を得ながら安心した利用に繋がるよう取り組んでいます		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初めて来居される時には、色々な思いが入り混じり不安等抱え込まれている事を十分理解し、傾聴、受容を通し、少しでもお気持ちを癒して頂けるよう努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご相談の時点より、ご希望内容を十分に理解し、必要に応じて、他のサービス担当やGH間への相談や利用を含め、早期に安心感も提供できる支援になるよう努めています		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や慣習などを中心に教えて頂いたり、家事活動を中心に助けて下さっています。職員は常にその事に感謝の気持ちを伝え、共に生活をする者としての関係を深めています		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時間は定めず、ゆっくり過ごして頂けるよう配慮に努めています。遠方の方へは電話などにより良い事を中心に報告したり、何かあれば早期に相談させて頂く事でご家族に協力して頂く場面も増えています		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人がおられた自治会の方々、学生時代の友人、お仕事仲間の訪問など、お一人毎大切にされている関係を続けて頂けるよう支援しています	家族や親せきの人、自宅の近所の人、学生時代の友人、元職場の同僚などの来訪がある他、電話の取次ぎや子供の誕生日祝いの電話などでの交流を支援している。かかりつけ医の受診帰りなどの機会に、馴染みの場所へのドライブ(空港、湾岸道路、自宅近くなど)をしている。家族の協力を得て、一時帰宅や外泊、墓参り、法事への参加、外食、買い物など、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の個性を尊重しながら、良い関係が保てるよう雰囲気づくりを心がけ、散歩や外出、お食事の誘い掛けをして頂いたり、居室で一緒に過ごされたりと和やかにお付き合いをされています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院に対しては介護添書や口頭にて、ご本人の状況の伝達を行い連携に努め、再利用の為の制度も活用して頂けます。又、その間定期的な面会を行いスムーズな再利用に繋がるよう取り組んでいます。終了したご家族がボランティアとして来居下さったり、立ち寄って下さることもあります		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お一人毎の生活ペースを崩されないよう、思いや意向の把握に努めています。意思表示が少なかったり困難な場合も表情や態度から汲み取ったり、ご家族への相談や頂いた情報などから、その時々に応じた工夫を心がけています	入居時に本人や家族から聞き取ったことを入居調査表に記録し、センター方式のシートを活用してアセスメントしている他、日々の関わりのなかでの利用者の様子を生活記録に記録してミーティングで話し合い、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、家族からの情報や本人の表情や言動などから本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人情報の取り扱いには留意した上で、今までの生活歴や環境などアセスメント出来るよう、ご本人や身近な方から情報を頂いています。又、日常会話からの何気ない情報でも職員間で共有し、ケアに役立てたいと考えています		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録や健康管理記録、ケアプランを中心に一人毎、その日毎の心身状態と能力の把握に努めています。気になる事は職員間で共有し、ご自身の“出来る力”の変化には早期に気付けるよう検討しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式をアセスメントシートとして活用し、ご本人の担当職員が作成後、ユニット職員、計画作成担当者、ご家族と検討、確認を行っています	利用者を担当する職員がアセスメントを行って、本人や家族の思いや意向、生活記録に記録した受診結果や医師や訪問看護師ら関係者の意見を参考に、ミーティング時のカンファレンスで職員間で検討し、計画作成担当者が介護計画を作成している。計画に沿ったケアになっているか毎日チェックし、評価表を活用してモニタリングを実施し、短期は3ヶ月毎、長期は6ヶ月から8ヶ月ごとに見直している他、利用者の状況に変化があればその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	SOAP形式による個別の記録でご本人の状況・対応方法・アセスメント含め記載しており、情報は常に共有できていると考えます。必要に応じてケアプランの見直し時など、記録をケアに活かせるよう努めています		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況に応じ、医療連携や受診同伴、入院時には早期の退院に向けての取り組み、ご希望に応じ買い物、外出、ご自宅への送迎支援など、柔軟な対応が出来るよう心がけています		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察、消防には定期的に訪問頂き、ホームの状況を報告させて頂いています。教育機関からの実習の受け入れなどを通しての交流も、ご入居者の状況を把握、検討しながら行っています		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	歯科診療も含め、ご本人・ご家族の意向で医療機関は決めて頂いています。相談しやすい関係を大切にするよう心がけ、体調変化時は早期の対応に気にかけて頂く等、良好な関係は築けていると考えます	本人や家族の希望するかかりつけ医に、他科も含めて事業所が受診の支援をし、結果は生活記録に記録し、電話で家族に報告している。訪問看護師が2週間に1回来訪し、バイタルサインや状況を確認し、訪問看護記録や生活記録に記録して、申し送りで職員間で共有している。緊急時は協力医療機関やかかりつけ医と連携して適切な医療を受けられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携による訪看との連携をはじめ、母体施設、受診先の看護職との関係は良好です。ご入居者毎に応じた対応をして下さり、ホームでの生活支援に繋がるよう助言、指導を頂いています。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に際しては、期間限定で再利用可能なシステムを設けており、ご本人、ご家族、主治医と検討の上、対応しています。入院時、添書による情報提供、入院中も関わりを継続し、病院関係者との連携を深め、ご本人の状況把握に努めています		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化及び看取りに関する指針を定め、ご利用開始時より意向の確認をさせて頂いています。出来る限り穏やかで安楽な生活を送って頂けるよう環境整備・予測できることを含め、その時毎の状況をご本人、ご家族、主治医、看護と検討、連携を得ながら行います	「重度化及び看取りに関する指針」を定め、契約時に家族に説明し、同意を得ている。実際に重度化した場合は、早い段階から家族やかかりつけ医、職員等、関係者が話し合い、医療機関への移設等を含め方針を共有して、支援に取り組んでいる。職員は年1回内部研修で看取りについて学び、チームで支援に取り組むこととしている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	マニュアル、フローチャートの活用や定期的な研修を通し、意識向上に努めています。発生した事項は些細な事でも報告書を残し、委員会活動を通し他職種からの助言も含め分析、改善策を検討し実践に活かしています。救急蘇生の訓練も実施し、迅速な対応が出来るよう技術の向上に努めています	事例が生じた場合は、事故、ヒヤリハット報告書に状況や対応、対策等を記録し、ミーティングで全職員で検討すると共に、法人のリスクマネジメント委員会で助言を得て再検討し、対応策を介護計画に反映させて一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。マニュアルがあり、法人で年1回消防署の協力を得て救命救急講習(AED、実技)を実施し、リスクマネジメント、転倒、感染症、事故発生時の対応など年5回研修の機会を設けている。内部研修も年1回実施して事故防止に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の訓練の実施、又、防火に対しての意識を高める為に独自の自己点検シートでの取り組みを行っています。台風等、予測可能な災害は臨時会議にて検討を行っています。地区の消防隊には協力のお願いができています。災害時には地域の方へも支援が出来ればと考えています	消防署の協力を得て法人合同で年1回、消火、通報、避難訓練を利用者も参加して行っている。事業所単独で年1回訓練を実施して避難経路の確認をし、年1回防災、災害に関する勉強会を行っている。職員の意識を高めるため、毎日、防火自主点検表をチェックし、月1回、利用者を担当する職員が居室の点検をしている。法人施設が1つの自治会となっていて、法人内の緊急連絡網はできているが、地域との協力体制を築くにはいたっていない。	・地域との協力体制の構築
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報取り扱いの知識を持ち、職員各自と誓約書を取り交わしております。接遇や虐待防止の研修を通し意識の強化に努めています。お一人毎に合った対応、言葉かけの検討やデリケートなケアに対しては細心の留意をし気持ちよく応じて頂けるよう努めています	職員は新人研修のほか、内部研修で倫理やコンプライアンスについて学び、毎日の接遇トレーニングを通して、人格の尊重とプライバシーの確保について理解して、利用者の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。不適切な対応があれば、管理者が指導している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が表現しやすい環境づくりや状況に合わせた話し方、対応を心がけています。自己決定が困難な方に対しても表情や態度からの把握に努めたり、ご家族に相談してご本人にとって最良の自己決定に繋がるような支援を目指しています		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の意向や日々の心身の状況を把握し、その方の生活ペースに合わせた支援となるよう心がけ、必要に応じてその日の勤務体制や業務内容を変更しご希望に沿えるよう努めています		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人のご希望や、自己選択しやすい環境作り、ご家族からの情報提供等から、馴染みの化粧品、毛染め、顔そりなど、その人らしさが継続できるよう支援しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物や調理等、一場面でも参加して頂けるようお一人毎の状況に応じ工夫をしています。上手く行えなくても否定せず、達成感を感じて頂けるよう心がけています。季節の行事食や風習の献立、好物の提供で食欲増進に努め、環境作りも含め心地よい時間となるようサポートしています	職員が内部研修で栄養について学び、利用者の好みを聞いて献立をつくり、差し入れの野菜等を使って三食とも事業所で調理し、利用者の状態に合わせた形状で提供している。利用者は職員と下ごしらえや盛り付け、配膳、食器洗いなどできることを一緒にし、昼食は同じテーブルで同じ食事を楽しんでいる。季節の行事(正月、節分、ひな祭り、花見、クリスマスなど)に合わせるなどして、おせちや七草粥、豆ごはん、たけのこご飯、ちらし寿司、松茸ご飯、果物など季節の味覚を楽しめるよう支援している。毎日、好みの飲み物(しょうが湯、甘酒、カルピス、ほうじ茶、煎茶など)を提供し、誕生日にはその人が食べたいものとケーキなど、食事が楽しめるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人毎の食事、水分摂取量は記録し把握しています。状況に合わせて献立の変更、補食、形態を検討して提供に努めています。飲み物の種類も豊富に揃え、楽しみながらの水分量確保になるよう心がけています		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	居室に洗面所を設置、共有の洗面台は高さ調整が可能で身体状況に合わせて使いやすい設備を整えています。口腔ケアや用具の管理は個別の状況を見極め、それに応じ“出来る力”を損なわない支援となるよう心がけています		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	お一人毎の排泄パターンや表情サインを把握し、誘導時は尊厳保持に気をつけ、汚物処理の際も他者の目に触れないよう配慮しています。パット類を使用する方の皮膚トラブルには留意をし、排泄機能維持、向上に向けての援助を行っています	排泄チェック表を活用してパターンを把握し、尊厳を傷つけないように配慮した声かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の把握、食品の工夫(食物繊維・オリゴ糖の利用)、運動、腹部マッサージ等、出来るだけ薬に頼らないよう取り組んでいます、ご本人の状況により薬でのコントロールが必要な時には、負担を少なく出来るよう検討し対応しています		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	原則お一人で可能な方は、時間、回数を定めず希望に沿って、健康面には留意をしながら入浴して頂けます。お手伝いが必要な方には、その方の状況に合わせて回数等検討し、その方に合った声かけ、入浴方法で、ゆっくりと楽しんで頂けるよう心がけています	入浴時間は決めず、利用者の希望に合わせてゆっくりと栓風呂を楽しめるよう支援している。シャンプーやボディソープは利用者の好みのもを使い、季節に合わせたゆず湯や菖蒲湯、好みの入浴剤などの香りを楽しんでいる。職員も一緒に入浴することもあり、歌を歌ったり数を数えたり、会話を楽しむなど、ゆったりとしたふれあいを楽しめる時間になるよう支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人毎の日頃の睡眠状況を把握し、体調を崩されないよう留意をしながら日中の過ごし方の工夫に心がけています。又、眠れない時の過ごし方も苦痛にならないよう配慮をしています		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録に処方時の説明書をファイルし、内容を理解し支援しています。内服マニュアルに沿って確認を行い、実施者サインにて確認をとる等、服用に関する事故防止にも努めています。必要時には主治医へ状況報告、相談を行い、その方にとって最適な与薬となるよう心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の希望される役割を周囲の方々との調和を検討、調整しながら行って頂き、生き活きとした活動参加になっています。して頂いた事には感謝を伝え、助け合える喜びを感じて頂ければと考えています。お一人毎の好物を献立に活かしたり、嗜好の飲み物で乾杯したり、気分転換に努めています	節分の豆まき、ひな祭り、七夕飾りづくり、法人の夏祭りの準備(笹でやぐらを飾る、仮装の衣装づくり)、文化祭の作品づくり(色紙を丸めた貼り絵など)、敬老会、クリスマス会や忘年会(プレゼント交換やくじ引きなど)、誕生会、テレビやラジオの視聴、音楽鑑賞、懐メロ、歌を歌う、新聞や雑誌を読む、ラジオ体操、月2回の音楽活動(音楽に合わせて体を動かす)、折り紙、パズル、粘土細工、ゴミ袋たたみ、メモ紙づくり、花壇の草取りや水やり、洗濯物干し、洗濯物たたみ、お茶葉をフィルターに入れる、食事の準備や片付けなど、楽しみごとや気分転換等の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族との外出のお手伝いや、散歩、買い物、寺社への参拝、ドライブ、季節毎の外出行事を、お一人毎の状況と体力を考慮しながら、グループや個別で対応しています	初詣(松涛神社)、季節の花見(桜、つつじ、菖蒲、アジサイ、もみじ)、ドライブ(小野田須恵公園、常盤公園など)、受診の機会を利用したドライブ(空港、湾岸道路、自宅近くなど)、近隣の散歩、法人のボランティア行事、スーパーマーケットへの買い物、家族の協力を得ての帰宅や買い物、外食、外泊、墓参り、法事への参加など、日常的に外出できるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人、ご家族と相談しながら、その方に合った支援となるよう検討させて頂いています。必要に応じ、お金をお預かりする方への管理については、お預かり金対応マニュアルに沿って、職員2名で確認するなど、事故のないよう努めています		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お電話のやりとりは、ホームの電話の子機を利用し、居室でゆっくりお話して頂いています。お便りに対しての対応は現在ありませんが、ご家族からのお便りを読んで差し上げる等、ご自身にとって大切な方への思いを共感できたらと思っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所、リビングを中心に居室が配置され、台所からの匂いや音を感じる事ができます。季節毎の生花や飾り物、冬季のこたつや檜風呂、居室の障子・襖等、さりげなく季節感や五感に働きかけるよう工夫をしています。各居室の温湿度、明るさは適宜調整しています	玄関には季節の花を飾り、入り口のベンチに座って花壇を楽しむことができる。リビング、ダイニングはウッドデッキに面して明るい日差しが差し込んでいる。キッチンからの音や匂いは生活のリズムになっている。畳のスペースはこたつに入ったり昼寝をしたりして、大きなソファや椅子と共に、利用者のくつろぎの場となっている。浴槽は桧でできており、ほのかな木の香りでリラックスできる。温度、湿度、換気、音に配慮して、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関先、サンデッキにはベンチを置き、居間にはこたつやソファがあります。時には多目的室で過ごされたり、お一人毎思い思い過ごせる場所が出来ています。時には過ごしたい場所が重なる事もあり、トラブル回避への働きかけも行っていきます		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室毎に入口のデザイン、内装、照明器具等を変え、お一人毎の生活空間づくりが楽しめる工夫をしています。自宅で使用されていた馴染みの道具等を持ち込んで頂き、個性豊かで、ご本人が一番心地よく過ごせる場所となっています	ベットや寝具、箆筒、衣装ケース、衣装ハンガー、机、いす、座卓、仏壇、キーボード、時計、鏡、本、新聞や雑誌、日用品などを持ち込み、家族の写真や作品、ぬいぐるみ、小物などを飾って、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーで、手すりの設置、浴室の工夫、3サイズの食卓セット等、安全面に配慮し、無理のない動作を促し、機能回復、維持に努めています。		

## 2. 目標達成計画

事業所名 グループホームらくや

作成日：平成 28 年 9 月 30 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	○評価の意義の理解と活用 自己評価の際の取り組みが画一的である為、新しい課題に気付けない。又、職員個々の主体性が伺えない	全職員の意見が自己評価に反映され、取り組みが充実している	・自己評価表の項目毎を職員個々で自身の評価として行う事で、些細な事でも問題意識を持ち、全職員で取り組みを行う	10ヶ月
2	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議での意見を、日々のサービス提供へ反映は行なえているが、地域の方の参加が少ない	地域から参加して下さる人が増え、より運営推進会議が充実する	・自治会の方々に会議の趣旨をお話しする機会を設ける(自治会長へお願いし紹介頂く) ・施設行事へのお誘いや地域行事の参加を通し地域の方との関係を深める ・近隣の商業施設、ご家族のOB等色々な立場で応援して下さる方への参加をお願いしていく	12ヶ月
3	36	○災害対策 災害対策における地域との協力体制の構築 施設周辺は商業施設が多く、周辺地域の住人も高齢の為、協力を得にくい	自治会連合会と周辺の商業施設に災害時の協力に対する理解を得て、万一来に備えより安全な避難体制を築く	・施設行事へのお誘いや地域行事への参加等を通し自治会連合会の方々との関係を深め、運営推進会議の地域メンバーの拡大を図ると共に、安全対策への協力をお願いを行う ・周辺商業施設への協力要請を引き続き行う ・非常・災害対策の取り組みを、運営推進会議での議案とし検討頂く ・商業施設へマニュアルを活用し広報啓発を行う	12ヶ月
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加すること。